

報告タイトル（＊日本語と英語両方ご記入ください）

習近平政権における地方紙の腐敗報道フレームの変化：量的テキスト分析による試み
“News Frames on Corruption Issues and Political Shifts Under Xi Jinping: A Machine-learning Approach”

氏名（所属）

于 海春（早稲田大学）
YU Haichun (Waseda University)

要旨（800字程度）

本報告の目的は、計量テキスト分析を通じて習近平政権の発足後のメディア報道における具体的な変化を解明することである。習近平政権が発足して以来、政治権力の中央への集権化や言論・メディア統制が強まっていることがしばしば指摘されている。しかし、先行研究は習近平政権以降のメディア報道における変化の範囲と程度を直接的に描くことができていない。本報告は「腐敗」に関する報道を切口にして、2000年代以降、胡錦濤政権から習近平政権に至る中国のメディア報道における変化を量的に提示する。

本報告では党報（政治志向新聞）と都市報（市場志向新聞）との比較の視点を導入し、Latent Semantic Scaling（LSS）という半教師あり学習の手法を用いて分析を行った。具体的には、2004年から2022年まで北京・広東・上海三地域の党報と都市報の記事を対象とした量的テキスト分析を行い、地方紙の腐敗報道フレームにおける時間的変化と地域的差異を実証的に検討した。分析の結果、習近平体制の発足後、中国の新聞のニュース生産実践における報道フレームが宣伝フレーム中心に転換し、地域的バリエーションが失われつつあるという実質的変化が生じたことを明らかにした。本報告の発見は、権威主義体制の中国における政治権力構造の変化に伴うメディアの役割転換について実証的データから示唆を与えるものである。